PHASE4「リサイクル」こまめな対応でリサイクル率UP [mt]







リサイクルの推進にあたり、現場間で密に連携することで成果を挙げた事例を紹介します。

- 小売チェーン向け受発注部署の事例 -

現場間で密に連絡を取り、





- ・終売品の計画的な在庫移動、フードバンク寄贈、社内配布等による排出削減、
- ・リサイクル業者に近い場所に在庫移動させることによりリサイクル率向上。



過去3年で Bチェーン向け食品廃棄 4割超削減、 リサイクル率80%→98%

-Bチェーン向け営業部 W課長

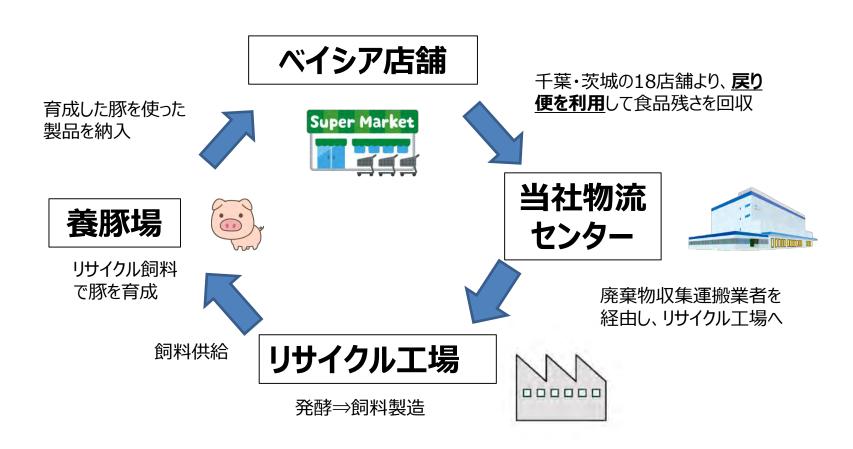
営業、受発注担当者全員体制で、 「廃棄の回避とリサイクル」に意識高 く取り組んでいます。



PHASE4「リサイクル」ベイシア様との連携(リサイクルループ) いる

リザイクル

ベイシア18店舗の食品残さを戻り便を活用して回収し、家畜の飼料工程へ回し、その畜肉製品を店舗で販売するフローを実践しています(2010~)



上記フローが国の「食品リサイクルループ(※)」に認定

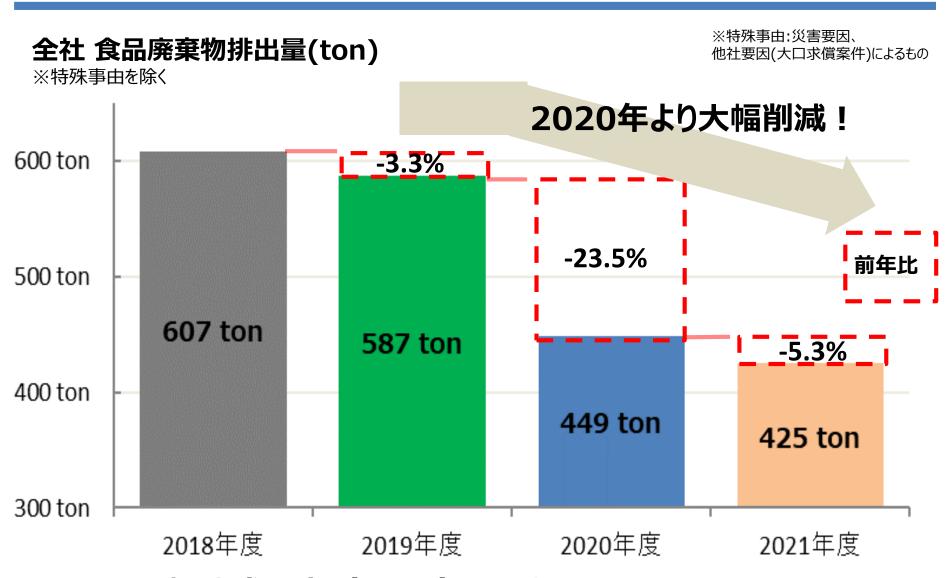
※)食品リサイクルループ:食品事業者とリサイクル業者、農業者が連携して構築する食品リサイクルの循環モデル。食品リサイクル法に基づき、主務大臣に計画を認定されることで廃棄物処理業の許可不要等の特例措置が適用される。令和2年7月現在49件が認定されている。

定量効果



食品廃棄量の推移

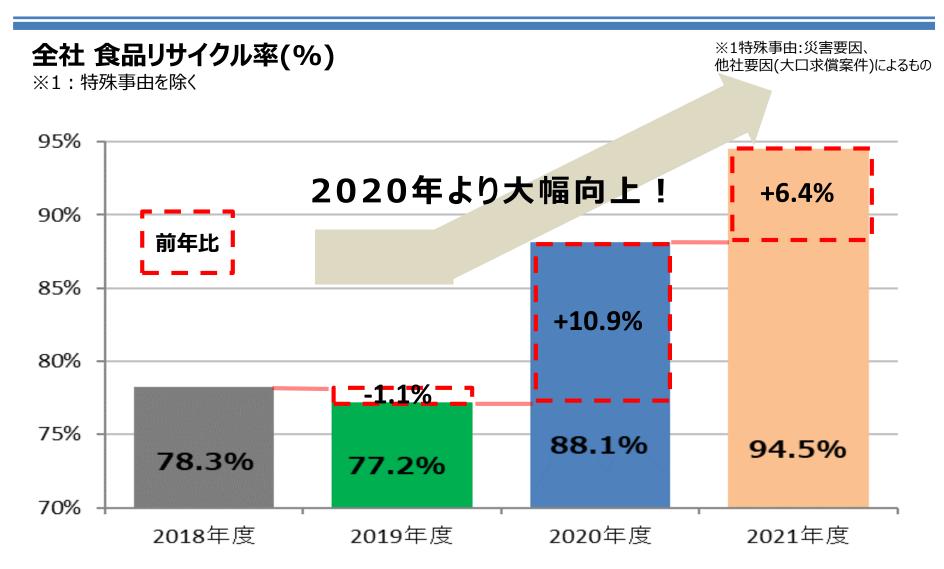




目標達成目安(-4%)を大幅に上回るペース!

食品リサイクル率の推移





2020年度以降、新しい業種目標(※2:75%)を大幅にクリア!

各活動による食品ロス削減効果(トン/年)

ACCESS 日本アクセス

各活動による、食品ロス削減への貢献度を、できる限り定量(トン/年)で表してみました。サプライチェーンに拡がる対策の定量化は難しいですが、自社で減らす対策よりも規模も社会的な貢献度も大きいと思われ、今後はさらに力を入れていきます。

PHASE1

「ロスを出さない」

PHASE2

「売り切る」

PHASE3

「配る」

フードバンク等への

寄贈が増加した量

:50トン

(展示会の寄贈等

はメーカー在庫

を含む)

PHASE4

「リサイクル」

自社で減らす対策

自社食品廃棄物削減量:182トン

(2018年度-2021年度 自社で減らす対策)

AI自動発注で削減

100トン

グループ会社ドルチェの取組)

インターネットチャネル との連携、販路拡大で 当社/メーカーの ロス削減

80トン

リサイクル処理

|増加量:<u>69トン</u>

(2018年度-2021年度 リサイクル率向上分)

サプライ チェーン に広がる対策 商品開発を通じ、 店舗/消費者側で ロス削減 40トン

業界全体のロス削減 対策に参画、貢献 数万トン? 当社インフラ活用により 店舗側のロス削減 連携した寄贈取組で店舗側のロス削減 20トン

今後さらに注力!

リサイクルループによる再生利用

:<u>300トン</u>

(ベイシア様等の取組)

36

日本アクセスは今後も、 持続可能な社会実現に向け、 サプライチェーン全体での最適化を考えた 食品ロス削減に取り組んでいきます。



